

2022年11月18日(金) 18:00-19:30
金沢医科大学病院 中央棟4階 橘ホール

希少化・個別化する がん治療開発に必要な研究基盤

土原 一哉 先生

国立研究開発法人 国立がん研究センター
先端医療開発センター 副センター長

ご略歴

- 1993年 金沢大学医学部 卒業
金沢大学医学部附属病院第二外科 研修医
- 1994年 高岡市民病院外科 医員
- 2000年 東京医科歯科大学大学院医学系研究科 修了
- 2000年 Postdoctoral Fellow, Ontario Cancer Institute/ University Health Network, University of Toronto, Canada
- 2005年 国立がんセンター東病院 臨床開発センター がん組織生理機能解析プロジェクト 室長
- 2013年 国立がん研究センター 早期・探索臨床研究センタートランスレーショナルリサーチ分野 分野長
- 2016年 国立がん研究センター 先端医療開発センター ゲノムトランスレーショナルリサーチ分野 分野長
- 2018年 国立がん研究センター先端医療開発センタートランスレーショナルインフォマティクス分野 分野長
- 2022年 国立がん研究センター先端医療開発センター 副センター長併任

主な所属学会

日本癌学会(評議員)、日本臨床腫瘍学会(協議員)、日本メディカルAI学会(評議員)、American Association for Cancer Research

担当 金沢医科大学一般・消化器外科学 高村博之教授

共催 北信がんプロ ※ がんプロe-learning科目の演習対象となる講演会です。

問い合わせ先 金沢医科大学教学課(大学院医学研究科担当)

d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp

ゲノム検査の普及、新規薬物療法の発展により、夢物語と思われていた「ゲノムの理解ががん治療に直結する医療」が実現したかに思われる。

一方でゲノム検査の拡大、治療標的のがん細胞から微小環境への拡大、副作用コントロールや精神腫瘍学的アプローチなど全人的ながん治療の個別化など新しい課題が生まれている。

これらの課題を解決し新規治療の開発を可能とする研究基盤構築が必要である。